



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京都区文京区小塚1-7-6
〒112-0004 電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

令和元年度第2回理事会を開催(於:東京都文京区後楽)

全市連は10月28日(月)、令和元年度第2回理事会を文京区後楽・林友ビルで開催した。出席は理事31名・監事計2名の計33名。また、林野庁木材産業課の服部浩治総括課長補佐、井堀秀雄課長補佐(流通班担当)及び西垣太郎専門職並びに業務課の田口護企画官(国有林材安定供給)及び川原聡課長補佐(供給企画班担当)に御出席頂いた。

会長挨拶

西垣泰幸会長は開会挨拶で、「台風及び豪雨で大きな被害が発生、被害受けられた方々に御見舞い。午前中、全市連の原木部会及び製品部会を開催。木材市場・全市連の存在意義にも係る、木材市場の現状、課題、今後のあり方等について論議頂いた。両部会の成果を活かして、全市連としても、課題解決に向け取り組んで行く。数は力であり、会員を増やす努力は不可欠。会員同士連携して、困難な状況を乗り越えてゆくことが重要。」等と述べた。

林野庁挨拶・情報提供

林野庁木材産業課総括課長補佐から、「台風19号等被害への御見舞い、

会員市場被害への御見舞い。林野庁として復旧等にしつかり対応していく。平成30年の木材需給表が公表され、自給率が36・6%となり8年連続上昇、関係者に敬意。脱炭素社会実現に向け一般消費者の関心高まっており、SDGsが関心を集めている。木材利用を巡る環境も、建築基準法改正により木造建築物の耐火に係る制限の合理化が図られ、都市における木材利用等の取組が更に進むことが期待される。林業成長産業化を進めていく上での、全市連の皆さんの御協力と御理解をお願いする。」等に言及した挨拶を頂いた。

林野庁業務課田口企画官から、「台風及び豪雨による国有林の被害については、現在調査中。大きな山崩れ等は確認されていないが、中小規模の被害報告がある。国有林としても復旧・復興に努めていく。樹木採取権については、10年間で200ha程度の規模を考えているが、現在、実施に向けて、細部を検討中。固まった段階で、情報提供したい。」等、挨拶と情報提供を頂いた。更に、同木材産業課井堀課長補佐から、令和2年度の予算概算要求について、林野庁関係予算概算要求の概要、概算要求の重点事項、林業・木材産業成長

化促進対策、木材産業・木造建築活性化対策、安全な木材製品等流通影響調査・検証事業及び木材加工流通施設等復旧対策事業等について情報提供を頂いた。

質疑・意見交換

林野庁の説明等に関連し、質疑・意見交換を行った。主な項目としては、「①セーフティネット保証制度における木材業指定について(要望)②大径材等売れず昔からの林業地崩壊、製材工場減、地域経済どうなるのか心配、地元製材工場へのテコ入れを③JAS構造材及び外構の助成継続④補助事業等採択の要件等⑤地元素材生産、製材所減、地域によって振興方策異なる、アドバイザー派遣等によって地域の実情に応じた処方箋を⑥30年木材流通構造調査結果について

原木部会及び製品部会報告

「1」原木部会 山下薫部会長(真庭木材市売(株))から以下の事項について討議されたとの報告。

・役物、大径材需要減、低単価、出材意欲減退・バイオマスが最低価格水準維持も、良材もバイオマスに・原木の仕分けと市場の役割・大型工場増え、従来の製材工場減少、市売形骸化・直送が増・人手、トラック不足・パークの処理課題、バイオマス燃料、堆肥等で活用している事例も・地域に応じた施策が必要・皆伐による出材量確保と再造林への助成・植林する人材育成・自社林の購入、素材生産業への参画、素材業者への協力

「2」製品部会 多田啓部会長(株アサモク)から以下の事項について討

議されたとの報告。

・取扱量及び売上減・和室減少、役物需の大大幅減・加工、建築等への取組・競り成立の困難化、競りへのこだわりと、競りの意義・並材が高価格材かの選択・出口戦略としての大断面、CLTへのアプローチ・公共建築物等への参入・建築業界、ゼネコンへの働き掛け、建築士、設計士等との連携・現し構法のPR・問屋、買方の高齢化、弱体化等で物流機能失われつつあり、市場の直需者への直売も検討・トラック輸送コスト等

情勢報告・業務運営

用意した資料に基づき、事務局より次の事項について報告し、ご了解を頂いた。①JAS展実施状況②効果的なサプライチェーンの構築支援事業③クリーンウッド法関連④林業木材産業関係税制及び金融についての要望等⑤「原木部会」及び「製品部会」設置について⑥政策提言⑦台風・豪雨災害被害状況⑧未来投資戦略の概要等⑨平成30年木材需給表⑩森林経営管理制度・森林環境税⑪国有林改



「理事会の様子」



「製品部会の様子」



「原木部会の様子」



「理事会の様子(2)」

正法⑫「ウッド・チェイン・ネットワーク」⑬SDGs活用ガイド

【その他】

①次期連盟総会の日程案については、令和2年5月22日(金)、熊本市において開催を予定

②新規加盟申し込みのあった宮崎木材市場(株)(宮崎県宮崎市 藤井勝一郎代表取締役)について加入が承認された。

③過日辞任届のあった平田恒一郎理事の辞任について、事後承認された。

④その他

ア 台風等災害復旧・復興に係る林野庁への要望(a. 台風被害に係る迅速な復旧・復興対策の実施 b. 国土強靱化に必要な森林整備予算の大幅拡充)

イ 軽油引取税免税措置関連アンケート調査(概算で、1木材市場当たり、年に約百万円の軽油引取税免除となっており、木材市場にとって極めて重要な税制措置であるので、引き続き延長を求めて行く)

ウ 製材分野への外国人技能実習生導入の検討会(全木連資料)

エ 台風、豪雨によって、会員市場の施設に被害報告のあった関東支部及び関東支部対して、連盟からお見舞い金を送ることについて

以上について、提案・報告し、了承・承認された。

【講演会】

議事終了後、林野庁木材産業課服部総括課長補佐に「SDGs(持続可能な開発目標)」と森林・木材の関係について」と題して御講演頂いた。

概略は、以下の通り。

1. MDGsからSDGsへ  
MDGs(ミレニアム開発目標 2000年「国連ミレニアム宣言」採択)からSDGs(持続可能な開発目標 2015年国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択・2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な開発を実現)
2. SDGsの特徴

- ・先進国を含む全ての国が取り組む・途上国、民間企業、市民社会等が役割果たす・俯瞰的視点で統合的に扱う・誰一人取り残さない

3. 2030アジェンダとSDGs

- ・2030アジェンダは人類、地球及び繁栄のための行動計画
- ・目標・ターゲットは統合され不可分、経済・社会・環境を調和させるもので向こう15年間の行動を促進
- ・17の持続可能な開発目標と169のターゲット

- ・利用可能な資源を動員し、全世界の強い関与を促進

4. アイコンとゴールの相違

5. SDG15の構成

- ・陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- ・森林に直接関連するゴール15のターゲットと指標

- ・その他の森林関連のゴール、ターゲット、指標

- ・木材関連のゴール、ターゲット、指標



「講演会の様子」

(ゴール12) 持続可能な生産消費形態を確保する

(ターゲット12・2) 2030年までに

天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する

(指標) マテリアルフットプリント(MF)、国内材料消費量(DMC)・木材消費量がターゲット達成の目標に…

6. SDGs推進本部 内閣官房

- ・SDGsに貢献する森林・林業施策
- ・地方創生の実現に向けたSDGs未来都市として60の自治体を選定

7. SDGs推進のための企業等との連携

- ・SDGs実施指針
- ・SDGsの企業行動指針
- ・木材関連企業がSDGsに貢献するために

■全国優良木材展示会開催

―東海木材相互市場―

片桐保昭氏(ヒノキ造林木)に農林水産大臣賞

当連盟主催の全国優良木材展示会は11

月22日(金)、東海木材相互市場・大口市場(鈴木和雄社長)で開催された。来賓は、林野庁木材産業課服部浩治総括課長補佐、中部森林管理局吉村洋局長及び愛知県農林水産部林務課平山 一木課長ほか。

出品材は、国有林材(木曾ヒノキ材、人工林ヒノキ材等)200m<sup>3</sup>及び民有林材合せて約2,800m<sup>3</sup>。

開会に当たり、全市連の西垣泰幸会長が、「本展示会は、全国の優良木材のPRと需要拡大のため全市連が長年にわたり、関係各位の御協力のもとに開催。今後、全国各地の木材関係者が一体となり、国産材の安定需給体制づくりを進め、林業、木材産業の健全な発展に取り組みることが重要。全市連としても、国産材の利用拡大及び利益の山元への還元等の課題に積極的な取り組みを進める。」旨の挨拶を行った。

服部木材産業課総括課長補佐等から入賞者に農林水産大臣賞、林野庁長官賞等を贈呈した。また、天然木曾ヒノキの競りに先立ち、吉村中部森林管理局長から挨拶を頂いた後、競りが行われた。

民有林材の審査結果は、次のとおり(敬称略)。

- ▽農林水産大臣賞 片桐保昭(ヒノキ造 林木170年生58cm 12m)▽林野庁長官賞 大富部喜彦、山根初造▽愛知県知事賞 六社神社、(株)杉生▽中部森林管理局長賞 丸晃林業、(株)河本材木店▽全木連会長賞 荒井祐次、若林木材▽全市連会長賞 大桑透、美山木材(株)▽全買連会長賞 金指勝悟、(有)福商。



〔表彰の様子〕



〔農林大臣賞受賞材〕

式典終了後は、快晴のもと全国から約150名の買方様が集まり、活発な競りが行われた。国有林優良材は、関係者が見守る中で、熱気のこもったセリが行われ、最高値のヒノキ天然木には42万円/m<sup>3</sup>の値がついた。

### 催 ■全国木材産業振興大会

令和元年11月6日、高知市において、木材関係者が一堂に会し、第54回全国木材産業振興大会が「次世代へつなぐウツ

ドファースト社会を目指して」をスローガンとして開催された。大会には、全木連、全木協連会員、太田豊彦林野庁次長、尾崎正直高知県知事、岡崎誠也高知市長、中谷元 衆議院議員(高知1区)等の来賓を含め、約600名が出席した。議事では、都市部での木材利用拡大、森林資源の循環利用に向けた取組、木材産業振興のため予算確保、税制措置継続、新たな木材需要創出のための技術開発・普及、合法木材、JAS製品等の供給、人材育成・確保を盛り込んだ大会宣言を全



〔振興大会 全木連鈴木会長挨拶〕



〔秋山順一氏表彰の様子〕

会一致で決議した。記念講演は、高知県立高知城歴史博物館渡辺淳館長が講師を務め、「土佐と材木―土佐藩の財政と林業―」の演題で、財政難の土佐藩を救った材木についての興味深い講演が行われた。表彰式では、内田幹雄前大分県木協連会長、旗政廣前全銘連会長、岡本信和前岡山県木協連会長等退任団体長に感謝状が、全市連推薦として武内達男氏(株)ナンブ木材流通)に全木連会長表彰状が贈呈された。その他、関係者では、宮戸謙治氏(新東京木材商(協))、久我洋一氏(株)関西木材市場)に全木連会長表彰状を、秋山順一氏(高知県林材(株))に林野庁長官感謝状が、内田善英氏(新東京木材商(協))に全木協連会長表彰状が贈呈された。

### 「平成30年木材需給表」の公表について

令和元年9月27日、林野庁は平成30年の木材需給に関するデータを集約・整理した「木材需給表」を取りまとめ、公表した。

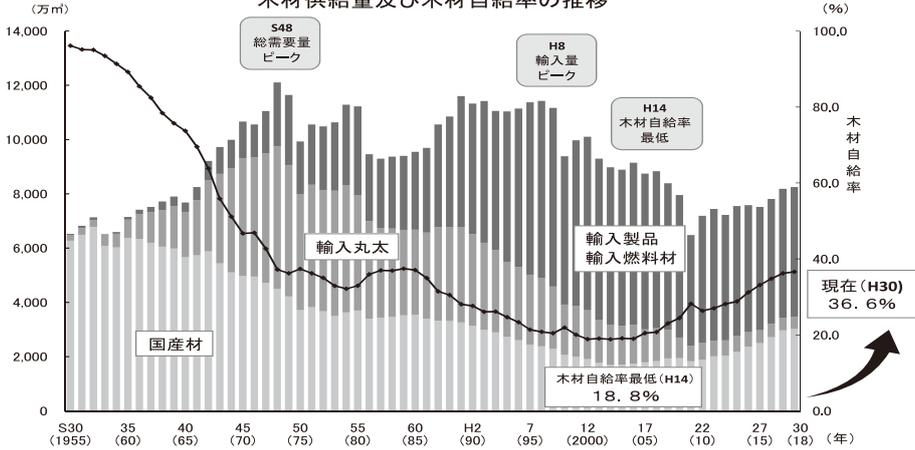
#### 1. 木材の需要

平成30年の木材の総需要量は8、247万8千立方メートルとなった。前年と比較すると62万4千立方メートル(0.8%)増加した。これは前年に比べ、用材が55万8千立方メートル(0.8%)減少し、しいたけ原木が3万7千立方メートル(11.9%)減少し、燃料材が122万立方メートル(15.6%)増加したことによる。

#### 2. 木材の供給

(1) 国内生産

木材供給量及び木材自給率の推移



平成30年の国内生産量は、3、020万1千立方メートルとなった。前年と比較すると54万1千立方メートル(1.8%)増加した。これは前年に比べ、用材が36万8千立方メートル(1.6%)増加し、しいたけ原木が3万7千立方メートル(11.9%)減少し、燃料材が21万1千立方メートル(3.5%)増加したことによる。

(2) 輸入  
平成30年の輸入量は、5、227万7

千立方メートルとなった。前年と比較すると8万3千立方メートル(0.2%)増加した。これは前年に比べ、用材が92万5千立方メートル(1.8%)減少し、燃料材が100万8千立方メートル(57.1%)増加したことによる。

3. 木材自給率の動向  
平成30年の木材自給率は36.6%となった。前年に比較すると0.4ポイント上昇した。木材自給率は、平成23年から8年連続で上昇している。

### 令和元年秋の叙勲

令和元年11月3日発令の秋の叙勲の林業・木材産業関連において、岡本信和氏(元岡山県木協連会長、元全市連理事)が旭日小綬章を受章されました。地方自治功労関連において、柴立鉄彦氏(元鹿児島県議会議員、全市連理事)が旭日中綬章を受章されました。御受章、誠にありがとうございます。

■誤り訂正 11月号3頁林野庁人事異動(抄)で(林野庁業務課供給企画班担当課長補佐)↑河原 聡となっておりますが、川原 聡の誤りです、お詫びして訂正させていただきます。

### 木材アドバイザー養成講習会(建築士会CPD認定)開催のご案内

(一社)全日本木材市場連盟では、木材を取り扱う方々等に、環境問題や木材需給、日本の林業のほか、木材の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識を学んでいただくことを目的とした木材アドバイザー養成講習会を、平成23年度から開催しており、お蔭様で、受講者は、延べ800名を超えました。令和元年度につきましても、次により木材アドバイザー養成講習会を開催します。この講習会は、(公社)日本建築士会連合会のCPD認定プログラムになっています。皆様のご参加をお待ちしております。(東京・大阪の各会場で定員40名程度を予定。)

・日程等は、

①(東京会場) 令和2年2月14日(金) 9:30~17:20、2月15日(土) 9:00~15:40 (於) 東京木材会館(東京都江東区新木場1丁目18-8)

②(大阪会場) 令和2年2月21日(金) 9:30~17:20、2月22日(土) 9:00~15:40 (於) 大阪木材仲買会館会議室(大阪市西区南堀江4丁目18-10 大阪木材仲買会館)

・受講料は、22,000円(ただし、受講料、テキスト代、受験料等を含みます)

・参加申し込み受付は、12月2日(月)以降とさせていただきます。

・申込み・問合せ(一社)全日本木材市場連盟 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階 TEL03-3381812906 FAX03-3381812907

・カリキュラム等  
教科内容と講師等は全市連のホームページを御覧ください。  
<http://www.zennichiren.com>

### 雑記帳

連盟事務所近くの牛天神様には、5本の御神木がある。御神木は、古神道における神籬(ひもろぎ)としての木や森をさし、御神体のこと。5本のうち2本は、本殿正面の左右に、菅原道真公所縁のウメの木(胸高径20cm)、1本は石段と反対側の入り口わき斜面のイチヨウの木(胸高径50cm程度)、1本は、本殿正面の鳥居前のモッコク(胸高径40cm程度)、最後の1本が神社に上ってくる苔むした石段頂上右のサクラの木(胸高径70cm程度)である。ウメについては、言うまでもなく菅原道真公が歌にまで詠んだお気に入りの木であるが、当該神社の御神木は、若く、何代目かの御神木かもしれない。イチヨウについては、現在の神社境内で最も樹高が高いと思われる雄の株であり、堂々としている。モッコクは、江戸五木(江戸時代江戸で人気のあった庭園木)の一つで、樹形を整えやすいこと、樹齢を経るに従って樹姿に風格が出ることから、「庭木の王」とされ、多くの神社等で御神木となっているが、このモッコクも葉が美しく樹形も優美な百年超えの御神木である。最後のサクラは、江戸時代に水戸光圀公から当社へ五本の桜の木が奉納され、そのうちの一本が枯れずに、今もお境内にあり、参拝者に愛でられている御神木。春の開花の時期の美しさはもとより、「この木から、気」が出ており、参拝者の方々は桜の木から「気」をいただいております」と言われる御神木中の御神木。近くにお越しの折は、是非、御参拝をお勧めします。